

調教 G メンの有馬記念調教評価

大きく見せる要因は充実した調教内容

まず、過去 5 年の有馬記念で調教のポイントとして挙げることができるのは、

1 週前追い切りと最終追い切りを南 W か CW のトラック馬場で行うこと。

昨年のリスグラシューを除く 4 頭の 1 着馬はこれに該当しています。

また、5 頭すべてに共通する調教内容としては、

1 週前もしくは最終のどちらかで併せ馬を先着していること。

2015 年に 8 番人気で 1 着したゴールドアクターも

これに該当していたことを考慮すれば、人気薄こそこのパターンに該当すれば激走の可能性があると考えています。

◎ラヴズオンリーユーは 1 週前追い切り、最終追い切りがともに CW。

1 週前追い切りの併せ馬ではダノンファラオに先行する内容で相手に追いつかせることなく先着しています。

そもそも併せ馬で先行したことに驚きました。

これはデビュー戦の最終追い以来でしたが、追い切りではめちゃくちゃ動く馬。

それだけに先行すると併せ馬にならないところがありますが、それをあえて先行したということは、それだけ精神的に落ち着いているという証拠だと考えることができます。

実際、最終追い切り CW では単走でしたが、非常にゆったりとしたフォームで走ることができており、馬体が大きく見える走り。これは錯覚ではなく、鳴尾記念時と比較すれば一目瞭然だと思います。ここまで変化していた根拠として、週末の坂路追いを挙げることができます。

デビューからオークスまで、レース間隔が中 3 週以上の時はすべてレース前週の週末に栗東坂路で時計を出していました。

しかし、昨年のエリザベス女王杯以降はそれができていません。

今回はそれができており、12 月 20 日の栗坂では 4F58.5 秒、2F27.3 秒の負荷。

馬体が減ったり、歩様が硬かったりすれば、ここまで調教することができません。

こういった充実した調教内容が馬体を大きく見せる要因、そう考えていますし、そうなれば、オークスで見せた以上のパフォーマンスを発揮できるはずだし、そうなれば今回のメンバーで勝って不思議はありません。

○クロノジェネシスは 1 週前追い切り、最終追い切りがともに CW。

併せ馬で先着できなかった部分がありますが、動き自体は週を追うごとに良くなっています。

陣営が懸念している奇数枠でゲートを待たされた時の対応がしっかりできれば、自然と結果は出るような気がします。

▲ラッキーライラックは 1 週前追い切り、最終追い切りがともに CW。

1 週前は併せ馬でしたが、4 コーナーでは内から並びかけたこともあり、最後の直線は 1 頭のような形。

ただ、これを併せ先着と判断しました。

最終追いは福永祐一騎手が跨り、馬が気分よく、
リラックスして走ることができた姿が印象的。

初コンビですが、手が合う印象ですし、
これなら出たなりの位置で進めたとしても、
道中で無駄な脚を使うようなことはなさそうです。

△フィエールマンは1週前追い切り、最終追い切りがともに南 W。

1週前は併せ馬の予定が早くに追い抜いたということで単走の形。

仮にこれが併せ馬だとカウントしたとしても、
併せ馬が1回しかないというのは国内のレースでは初めてのパターン。

これはちょっと気になります。

☆ペルシアンナイトは1週前追い切り、
最終追い切りがともに CW で併せ馬もともに先着。

素晴らしい動きを見せており、脚の使いどころひとつで
馬券圏内という可能性は十分にありそうです。

注カレンブーケドールは1週前追い切り、
最終追い切りともに美浦坂路という点で高い評価はできませんが、
併せ馬での動きは前走時と雲泥の差。

ここまで動けるなら、当然評価しなくてははいけないでしょう。

注オーソリティーは1週前追い切り、最終追い切りがともに南 W。

併せ馬で先着しているという点も評価できます。

ホープフル S の時は舌を出す幼さを見せていましたが、現状ではそれは解消されつつあるのかなと思います。

手前替えのぎこちなさは以前残っていますが、ポテンシャルが高い馬であることは間違いありません。

注ブラストワンピースは 1 週前追い切り、最終追い切りがともに南 W。

併せ馬も先着しており、客観的なデータとしては高く評価できます。

ただ、動きにはまだ重苦しさも残っており、このあたりがレースでどう影響するかでしょう。

注キセキは 1 週前追い切りが CW、最終追い切りが栗東坂路。

最終追いは素晴らしい折り合いで走れていましたから、今回のレースも番手からというイメージでしょうか。

そうするとペースが落ち着く可能性が高く、ゴール前での瞬発力勝負になった時の分の悪さは気になります。

注ワールドプレミアは 1 週前追い切り、最終追い切りがともに CW。

いずれも単走という点が気になりますし、時計自体も少し遅めですが、前走時の栗東坂路中心の追い切りから CW へ切り替えることができたあたりの上昇度はあります。